Asia Indicators

発表日：2022 年４月８日（金）

韓国のインフレ率は 10 年超ぶりの水準に一段と加速（Asia Weekly(4/4～4/8)）

～国際商品市況の上振れを受けて全般的にインフレ圧力が強まる展開～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 西濵 徹（TEL：03-5221-4522）

○経済指標の振り返り

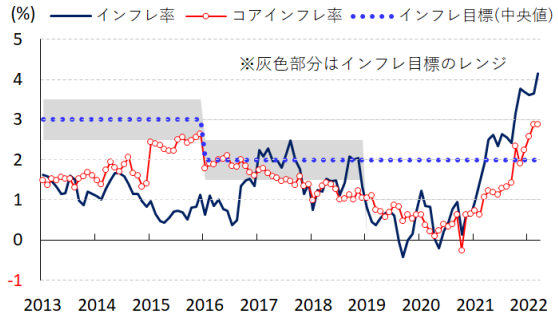
発表日	指標、イベントなど	結果	ｺﾝｾﾝｻｽ	前回
4/5（火）	（韓国）3 月消費者物価（前年比）	＋4.1%	＋3.8%	＋3.7%
	（フィリピン）3 月消費者物価（前年比）	＋4.0%	＋3.7%	＋3.1%
	（豪州）金融政策委員会（政策金利）	0.10%	0.10%	0.10%
	（シンガポール）2 月小売売上高（前年比）	▲3.4%	▲2.5%	＋12.0%
4/8（金）	（フィリピン）2 月輸出（前年比）	＋15.0%	－－	＋9.0%
	2 月輸入（前年比）	＋20.1%	－－	＋27.7%
	（インド）金融政策委員会（レポ金利）	4.00%	4.00%	4.00%

（注）ｺﾝｾﾝｻｽは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。**灰色で囲んでいる指標**は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～食料品とエネルギー価格の上昇を受け、インフレ率は 10 年超ぶりの水準に加速感を強める展開～

５日に発表された３月の消費者物価は前年同月比＋4.1%となり、前月（同＋3.7%）から加速して 12 ヶ月連続で中銀の定めるインフレ目標（２%）を上回る推移が続くとともに、2011 年 12 月以来の伸びとなっている。前月比も＋0.72%と前月（同＋0.58%）から上昇ペースが加速しており、穀物や油などをはじめとする食料品価格が上昇しているほか、国際原油価格の上昇を反映してエネルギー価格も上昇傾向を強めるなど、生活必需品を中心に物価上昇圧力が高まっている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比＋2.9%と前月（同＋2.9%）と同じ伸びとなっているものの、こちらも４ヶ月連続でインフレ目標を上回る推移が続いている。ただし、前月比は＋0.13%と前月（同＋0.42%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇の動きを反映して輸送コストが上振れしており、財価格に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、感染動向の悪化を受けた人の移動の下振れに伴いサービス物価に下押し圧力が掛かるなど、物価を巡る動きはまちまちの状況にある。

図１ KR インフレ率の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[フィリピン]～生活必需品を中心とする物価上昇の動きを受け、インフレ率は目標域の上限近傍で推移～

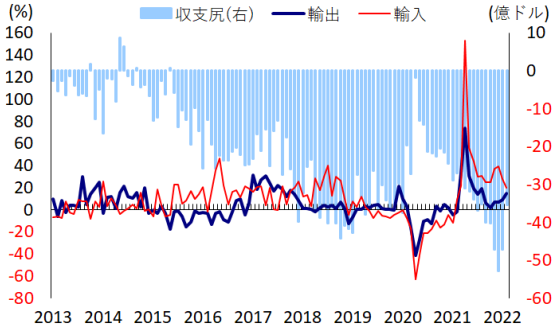
５日に発表された３月の消費者物価は前年同月比＋4.0%となり、前月（同＋3.1%）から加速して中銀の定めるインフレ目標（２～４%）の上限に達している。前月比も＋0.63%と前月（同＋0.09%）から上昇ペースが加速しており、穀物や食用油などを中心に食料品価格に上昇圧力が掛かっているほか、国際原油価格の上昇の動きを反映してエネルギー価格も上昇傾向を強めており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。当研究所が試算した食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率も伸びが加速している。エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れを反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かっているほか、新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染一服を受けた行動制限の解除の動きを反映してサービス物価にも押し上げ圧力が掛かる動きが確認されるなど、幅広くインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。なお、中銀のジョクノ総裁は年後半にも金融政策の正常化を見据える姿勢をみせており、必要に応じて予防的な措置を講じる用意があるとの考えを示す一方、景気回復が遅れるなかで難しい対応を迫られる局面が続くと予想される。

８日に発表された２月の輸出額は前年同月比＋15.0%となり、前月（同＋9.0%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は４ヶ月連続で拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連を中心に底堅く推移している。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けのほか、米国や日本など先進国向けも底入れの動きが続くなど、世界経済の回復の動きが輸出の追い風となっている。一方の輸入額は前年同月比＋20.1%となり、前月（同＋27.7%）から伸びが鈍化している。前月比は２ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。原油をはじめとする国際商品市況の上振れの動きが輸入額を押し上げているほか、輸出の堅調さは素材及び部材関連の需要を下支えするなど幅広い輸入に底入れの動きが続いている。結果、貿易収支は▲35.29 億ドルと前月（▲47.16 億ドル）から赤字幅が縮小している。

図２ PH インフレ率の推移

（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

図３ PH 貿易動向の推移



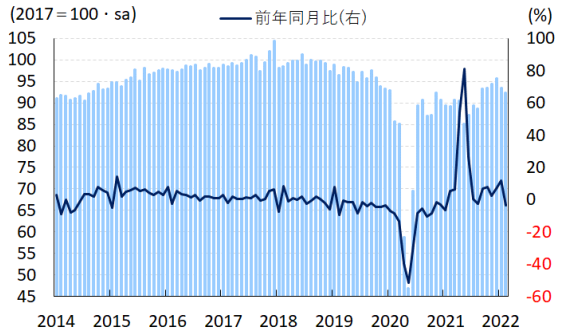
（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール]～年明け以降における感染再拡大や行動制限の再強化を受けて、家計消費に下押し圧力～

５日に発表された２月の小売売上高は前年同月比▲3.4%となり、前月（同＋12.0%）から６ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じた。前月比も▲1.21%と前月（同▲2.20%）から２ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。同国では月ごとの自動車販売が上下双方に振れるとともに、小売売上高全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲2.73%

と前月（同▲5.34%）から２ヶ月連続で減少していることが全体の重石となっている。なお、自動車を除いたベースでも前月比は▲0.99%と前月（同▲1.75%）から２ヶ月連続で減少しており、食料品など生活必需品や医薬品などに対する需要は底堅さを維持している一方、宝飾品や余暇消費などに対する需要が軒並み下振れしている。年明け以降における新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染再拡大を受けた行動制限の再強化を反映して、幅広い経済活動に下押し圧力が掛かったことが影響している。

図４ SG 小売売上高の推移



（出所）CEIC より第一生命経済研究所作成

以　上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。